

## 平成 24 年度 理学部卒業予定者アンケート

理学部では、平成 25 年 1 月から 2 月末にわたり平成 24 年度理学部卒業予定者を対象に大学生活全般に関するアンケートを実施した。今回の対象者は、平成 19 年度学部改組後 3 回目の卒業生に当たり、257 名中、208 名から回答があった。回収率は 80.9%であった。

「Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 25 年度理学部の各コース長が担当した。また、「Ⅱ. 集計結果 (pp. 18-37)」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

### Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック

#### 数学コース

平成 22 年度、23 年度、24 年度の 3 年分のアンケート結果と以前のものと比較し、それに基づいて分析を行い、今後の数学コースの教育等にどう生かしていくかについて考える。平成 22 年度、23 年度、24 年度の数学コース卒業予定者 56 名、59 名、65 名のうちそれぞれ 35 名、52 名、60 名から回答を得た。

以下で各年度のパーセントを (22 年度、23 年度、24 年度) で表すことにする。

#### 【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、友人との出会いは (74%、83%、70%) であり、かなり割合は高く、平成 22 年度と平成 23 年度は一番であった。また研究室での卒研やゼミについての割合の推移をみると (57%、63%、72%) で徐々に数値があがっており、平成 24 年度では友人との出会いを抜き、一番になっている。研究室でのゼミが年々充実していていることを反映する結果といえる。また授業については (26%、33%、33%) と徐々に数値は上がっているが高い数値とは言えない。一方で、「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」のうち、授業についての数値を見ると (57%、27%、33%) となっており、授業内容に満足していない学生の数は減少傾向にはある。今後も各教員が授業内容について検討をすることが必要であろうと思われる。満足できないもののうち例年数値の高いのは課外活動であり (11%、27%、23%) であった。課外活動を満足できるものと回答した学生は (46%、42%、25%) であり、年々減少傾向にある。

教育研究施設 (学習環境) についての満足度は、満足、ほぼ満足を合わせると (89%、94%、90%) であり、学習環境は十分に整っていると考えて良いのではないかと。

高知大学の就職支援活動については、満足、ほぼ満足を合わせると (66%、61%、78%) でありやや上向き傾向であると思われる。しかし、就職率は景気などの要素にも影響される部分もあるので、その時の状況に応じて臨機応変に対応しなければならないであろう。また、企業への就職を希望する学生が少ない数学コースではどのような就職支援をすべきかさらに考える必要があるだろう。ボランティア活動への参加は (37%、29%、32%) と数値的には低いものである。しかし、満足、ほぼ満足と答えた学生は (93%、100%、84%) であり満足度は大きいようである。教員志望の学生の多い数学コースであるが、教員となるための一つのステップとしてボランティア活動を行うことが、より重視されるかもしれないのでボランティア活動の参加を呼び掛けることは大切であろう。

#### 【転学部・転学科・転コース】

転学部・転学科・転コースの希望者は (0 名、2 名、1 名) であった。全員申請は認められている。

#### 【受講科目の感想】

満足できた授業の数は 40 以上 (23%、6%、13%)、30-40 (11%、23%、30%)、20-30 (34%、46%、32%)、10-20 (14%、15%、20%)、10 以下 (17%、8%、5%) となっている。年度により担当する教員が変わるせいもあり、年度によってばらつきがあるが、満足できた授業の数が 20-30 である者の割合が高い。特に平成 23 年度の満足できた授業の数が 40 以上については急激に減っている。満足した理由については親切で丁寧な授業であった (60%、63%、67%)、授業が一方

的でなかった(20%、15%、22%)、専門分野の実力がついた(63%、50%、63%)となっている。満足できなかった授業の数は、40以上(14%、2%、3%)、30-40(0%、2%、0%)、20-30(14%、12%、18%)、10-20(20%、25%、18%)、10以下(51%、58%、60%)となっている。満足しなかった理由のうち不親切でわかり難い授業が(49%、44%、57%)、実力がつかなかったが(37%、46%、28%)、教員の熱意が感じられなかったが(26%、8%、12%)であった。

#### 【標準履修モデル】

基礎科目の内容や難易度について肯定的な回答は各年度90%以上で年度がすすむにつれて増えている。また専門科目についての内容や難易度については(95%、90%、98%)であり、こちらも多くの学生が肯定的にとらえている。教育目標と履修モデルについて合致していたかについては肯定的な回答が(80%、91%、88%)であった。

#### 【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対しては、どの年度もそう思う人とそう思わない人がだいたい半分ずついる。また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい。」という要望に対し、肯定的な人は(26%、38%、33%)であり、全体的にはもう少しレベルを下げることを望む人が多いようである。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、肯定的な意見が(37%、40%、55%)であり、年度が進むにつれて増えている。具体的な要望に関する記述が多くあった。

#### 【成績評価】

成績評価については、否定的な回答が(6%、13%、15%)と若干増えている。年度が進むにつれて数値が増えていることの原因はよくわからないが、各授業で成績評価の明確な基準を学生に伝えることは重要であろう。

#### 【授業改革】

授業科目数と内容の適切さについては否定的な回答が(12%、2%、5%)であり、否定的回答の中で多かったのが「足りない」というものであった。

#### 【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員制度については肯定的な回答が(94%、96%、95%)であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。

#### 【自由意見】

H21年度は自由意見が全くなかったが、H22年度からH24年度についてはいくつかの自由意見が寄せられた。

#### 【分析と今後の教育へのフィードバック】

自由意見欄で出されている要望のうちいくつかのことについてはすでに改善をしている。今後も学生の要望のうち必要なものについては改善をしていきたい。

受講科目の感想で満足しなかった理由のうち「不親切でわかりづらい授業」の割合が多いように感じる。また授業については難易度が高いと感じる学生が少なからずいる。今までも学生の理解の手助けとなるように各先生方がレポートなどで創意工夫をしているが、今後も必要に応じてさらなる工夫が必要となるであろう。また、数学コースではH24年度から大学院生の協力のもと学習支援を行っている。この事業が授業理解の手助けとして有効に機能するようにより一層改善していきたい。また専門科目への要望として社会に関連した数学の授業や大学で学ぶことがどのような形で応用されていくかの例がある授業についての要望があった。数学の学習への動機づけを与える一つの方法として、大学数学がどのような形で応用されていくかについての解説を含めた授業などを検討することが今後の課題の一つとしてあげられるであろう。

### 物理科学コース

平成25年度アンケートにおいて分析を行う

### 化学コース

平成25年度アンケートにおいて分析を行う

## 生物科学コース

アンケートの回収率は、23年度が64%、24年度が72%であり、回収率は多少改善された。

### 【全般的な事項】

全般的な質問のなかで教育以外の事項に関する質問結果から判断すると（質問2）、過半数以上の学生たちが、授業、卒業研究、教員や友人たちとの出会い、課外活動を通じて有意義な学生生活を送ったことが推察される。一方、昨年度、本年度ともにわずかではあるが、卒業研究において、先生とのトラブルが原因で満足がいかない結果となった学生もいたようである（質問3）。

### 【教育に関する事項】

「大学生活において満足できたもの」という質問（質問2）では、授業については、昨年度、本年度ともに40～50%であった。一方、「満足できなかったもの」という質問に対しては30%～40%の回答があった。これは、「満足のいく授業とそうでない授業があった」ことを意味していると思われるが、同一の授業科目の評価が、学生によって大きく異なっている場合もあるかも知れない。いずれにせよ、アンケート結果は、満足のいかなかった授業科目数が、昨年度と本年度ともに10～20科目はあることを示している（質問12）。この理由として、「実力がつかなかった」、「わかりにくい」、「教材の工夫がみられない」、「一方的な押しつけ授業だった」といった理由があげられてる（質問13）。「実力がつかなかった」と回答した学生は、授業が簡単すぎたということかも知れない。「わかりにくい」という回答については、いちがいに教員サイドに問題があるとはいえない。講義をきいているだけでは十分に理解できないこともあるので、学生がしっかり自主学習をしないとついていけないことがあるのは当然である。これについては、教員が学生の理解度をチェックしながら、自主学習も促しつつ授業をすすめることで改善されるであろう。「一方的な押しつけ授業だった」については、おそらく教員が理解できているかどうか確認せずに授業を進めてしまったということであろう。「教材の工夫がみられない」という指摘については、具体的にどういうことなのかははっきりわからないが、プロジェクターをつかったビジュアルな、学生がイメージしやすいような工夫がなされていない授業があったということであろうか。また、現在使用している印刷機では、配布する資料（特に写真）をきれいに印刷できない。これは、印刷機の性能の問題であるので、性能のよい印刷機の導入を期待したい。

大学生活で満足したもののなかで「卒業研究」が昨年、本年度ともに70%近くの割合を占めた（質問2）。学生それぞれが、自分が好きな研究領域で研究ができたこと、高度な技術を身につけることができたこと、机上の学問ではなく実際に体験できたこと、単に楽しかったなど、その理由はさまざまであろう。学生は、「卒業研究」を「満足のいくものであった」と認識しているようであるが、教員サイドからみると、もっとしっかり取り組んでもらいたいという意見もある。「学生が卒業研究に満足した」という理由を詳細に分析してみる必要がある。「単に楽しかったとか、好きなことができた」では、教育の成果があったとはいえない。

コースの教育目標とカリキュラムの構成については（質問16）、概ね適切で満足のいく結果となった。授業内容の難易度については（質問17、18）、問題ないと思われる。「簡単すぎる」「難しすぎる」という回答が多少あるが、これは学生の学力の差に起因するものである。大多数の学生の教育については、現状のレベルで問題ないと思われる。「簡単すぎる」「難しすぎる」という回答をした一部の学生については、自主学習を促し、個別に指導をすることで対応するのがよいと思われる。

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に関しては（質問19）、昨年度、本年度ともにかなり多数を占めた。現状では、各分野（1研究室）あたり室内実験科目または野外実習科目を毎年1科目開設し、これに加えて臨海実習等の野外実習も行っている。当該コースの学生数が非常に多いことによる安全面の確保、実験室のスペースの問題、実験機器不足の問題を考えれば、現状が限界である。

昨年度、本年度ともに、「社会に出て役立つ授業をしてほしい」という意見と「その必要はない」という意見にちょうど2分された結果となっている（質問20）。理学という学問分野の性格およ

び現教員の専門性を考慮すると、社会において役立つ授業を即座に実施するのは難しいかも知れない。しかし、現在、理学部は「応用」、「地域」というキーワードを掲げ、基礎領域に加えて応用への展開も視野にいれ「理工学部（仮称）」に向けた改組計画を進めている。改組により、今後「社会に出て役立つ授業」もいくつか開設される可能性がある。

成績評価については（質問22）、昨年度および本年度ともに、適切またはおおむね適切であったという意見が大半を占めた。ただ、昨年度は「適切であった」が40%であったのに対して、本年度は18%であった。本年度、教員が評価基準を突然変更したとは思えないので、この結果については理由がわからない。しかし、「おおむね適切」だが、「完璧に適切でない」というこの結果は、何が問題なのであるか？「不可が多すぎる」という意味であろうか。あるいは逆に、「厳格な評価がなされていない」ということか。この理由を調査してみる必要があるかも知れない。成績評価に関しては、「相対評価」、「絶対評価」、「相対評価を加味した絶対評価」などが考えられるが、教員によって評価基準が異なっているようである。大学全体として、優、良、可、不可のおおよその割合を提示することが必要であろう。授業科目数については（質問23）、おおむね適切であるという回答結果である。

#### 【その他の事項（就職支援・転学部等・アドバイザー制度）】

就職支援については、おおむね満足したという結果になっている（質問5）。転学部等については（質問9）、ほとんど学生の意向に沿った結果となっている。アドバイザー支援については、皆満足しているようであった（質問25）。これまでアドバイザーはさほど深く学生支援に関わることはなかったが、ここ数年、成績不振者等への対応で深く関わるようになってきた。最近、メンタル面や学業面において、支援を要する学生が増えたことへの対応を考えると、今後アドバイザーの役割は益々重要になると思われる。

#### 地球科学コース

平成23年度は卒業生数20名中13名（回収率65%）、平成24年度は14名中13名（回収率93%）よりアンケートが回収された。いずれも同数ながら回収率は向上した。

#### 【全般的な質問】

高知大学における勉学や生活で満足できるものに対する回答として、「研究室での卒研やゼミ」「友人との出会い」「先生との出会い」が高い傾向は例年通りであるが、平成24年度卒業生はいずれも9割以上が満足として回答している。「先生との出会い」に100%満足したと回答していることから、14名と少人数で教員との信頼関係が得られていたことが要因であったと思われる。

一方満足できなかったものに対する回答として、おおむね例年通りの結果であり、他コースとの違いも顕著ではない。平成23年度は教員とのトラブル（2名相当）や研究室での卒研やゼミに不満を抱く学生（4名相当）が存在したことを示唆するが、平成24年度は解消されている。自由記述として「交通の便の悪さ」について両年度にわたり指摘があった。これは帰省や就職活動時の不便さを感じたものであろうか。「大学があまりお洒落でない」（平成23年度）との指摘は個人の感性にもよるが、魅力あるキャンパス作りを考える上では参考にすべき要素かもしれない。

教育研究施設（学習環境）への満足度は「満足できた」または「ほぼ満足できた」と回答した割合が平成23年度は100%、平成24年度も9割をこえ、「満足できた」と回答した割合は増加している。耐震補強により建物が改修され、補正予算により大型機器類が導入されたことを反映しているかもしれない。

就職支援活動については平成24年度3割に減少しているものの、平成23年度には7割の学生が何らかの不満を感じていた。内定状況との比較が必要であるが、学生のニーズをとらえつつ対応することが求められよう。

ボランティア活動には平成23年度2名、平成24年度4名の学生に関わり、いずれも充足感を感じている。

#### 【転学部・転学科】

平成23年度に1名の申請があり認められている。しかし他の設問結果にどう影響しているかは

不明。

#### 【受講科目の感想】

満足できた授業の数は 20 前後と回答する者が多く例年と変わらない。満足要因としては、授業の丁寧さ、教員の熱意、専門分野のスキルアップ等が重要な要素となっている。特に平成 24 年度は 13 名中 12 名の学生が「専門分野の実力がついた」ことを満足した理由にかかげていることが特筆される。

不満を残した授業数はいずれの年も 30 を超えることはなく、最頻値は 10 科目以下と回答した者となっており、他コースに比べ不満は少ないようである。不満要因としては「不親切でわかり難い」「一方的な押し付け」などがやや多い。自由記述には「自身の勉強不足により、話についていけない」と謙虚な意見と「教え方が退屈」といった不満がみられた（いずれも平成 23 年度）。

#### 【標準履修モデル】

基礎科目の授業内容や難易度については 7 割～9 割以上の学生が好意的な回答をしているが、一部適切な配置ではないと指摘する学生が存在した。専門科目については、平成 23 年度の 1 名をのぞき、いずれも適切に「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答しており、基礎科目よりカリキュラムの評価は得られている。

教育目標と標準履修モデルの合致度については、平成 23 年度 8 割 5 分、平成 24 年度は全員が「合致していた」または「概ね合致していた」と回答しており、平成 22 年度報告書で課題となっていた点は改善・解消されているとみなせる。

#### 【専門科目への要望】

「より高度な内容」を求める回答は平成 23 年度過半数、平成 24 年度 8 割と、多く、「難しすぎるのでレベルを下げしてほしい」という要望は平成 23 年度 4 分の 1、平成 24 年度は 1 名と少数派である。

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」との要望は平成 23 年度・平成 24 年度ともに 9 割前後と高い。地球科学コースではこれまでの実験・実習を重視してきたが、さらに重点化していく必要がある。

「社会に出て役立つことを授業に増やしてほしい」との声は年度によりばらつきがある。画一的な対応ではなく、ニーズに応じた柔軟なカリキュラム体系の供給が必要と思われ、それを自由記述欄で指摘した学生もいた。専門教育と実社会とのつながりについては平成 22 年度も指摘されており、各専門授業の実施に際して意識していく必要がある。「時事・経済」や「社会」に関する教養、コミュニケーション力、プレゼン技能、等は共通教育に関する要望案件であるが、すでに仕組みとしては整っているものである。情報提供や理系学生固有のニーズ対応については、学務委員会を通じて共通教育実施機構に働きかけていく必要がある。

#### 【成績評価】

成績評価が「適切」または「概ね適切」と答えた学生は 8 割前後で、平成 22 年の 6 割に比べて向上している。

#### 【授業改革】

各学科の「授業科目数と内容」についてはいずれの年度も 9 割以上が「適切」または「概ね適切」と答えており、平成 22 年度の 72%に比べて向上している。「単位が取りにくい授業を増やした方がいい（みんなが勉強すると思うから）」という声が 2 年連続であった。

#### 【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は、平成 23 年度 8 割、平成 24 年 10 割の学生が「適切」または「概ね適切」と答えている。

#### 【自由記述】

記述内容は多岐・多様であるが、示唆に富む。大学・学部全体、コース運営への提言・要望についてまとめた；

(大学・学部全体)

- ・ 履修状況の現況確認に関するサービス向上を訴える記述が複数認められた（平成 24 年度）。卒

業要件の充足状況を確認する作業に難解さ・煩わしさを覚えているようであるが、データベース化が進んだ現在においては、提供されても良いサービスかもしれない。

- ・コース間に卒業に際しての難易度差を感じている学生がいる（平成 24 年度）。卒業条件が主専攻・副専攻の組み合わせにより異なる状況を学生は敏感に察知しているようである。卒論の必須化や卒業条件の規格統一など、今後理学部改組の中で実現していく必要があると思われる。
- ・意欲的に取り組めない学生への救済措置を求める声があった（平成 23 年度）。多様化した学生への対応は全学的な課題であり、専門部局を中心とした対策の強化と、入学時におけるミスマッチの縮小にむけた入試改革が必要であると思われる。

（コース運営）

- ・卒論指導における研究室間格差を指摘し、教員の意識統一を求める声が上がった（平成 23 年度）。学生と教員が閉じた関係になることの問題点は認識しており、一時副指導教員制度を導入した時期もあった。コース会議等での協議を積み重ね、改善努力を継続する必要があると思われる。
- ・コース配属・研究室配属の前倒しを求める声があった（平成 24 年度）。既存カリキュラムの中ではケーススタディ等の運用で対応を検討したい。また改組に際しては、入試・コースのあり方を含め、より学生の声を反映した教育カリキュラム体系作りが求められる。

（その他）

- ・「図書館の 24 時間化」や各種機材（ゴミ箱、自販機、ターンテーブルなど）の整備に関する要望があった。予算縮小傾向にある中全てを実現することは難しいが、機をみて整備する努力を行なうべきであろう。

#### 【分析と今後の教育へのフィードバック】

平成 22 年度調査に比べると、全体に学生の満足度は向上しているように見受けられる。耐震補強工事により設備が刷新されたこと、学生数が減少し一人一人に丁寧な対応ができるようになったことが大きいように思われる。今後も適切な教育研究環境を維持・発展させることに組織的に対応して行ければと思う。また平成 28 年度に予定される教育組織改編に際しては、問題点を解消するよい機会である一方、新旧カリキュラム混在による混乱も懸念される。計画的・戦略的な取り組みにより、今日求められる教育の質向上と多様性の維持に努めていきたい。

### 情報科学コース

卒業生数は、平成 23 年度は 19 名、平成 24 年度は 16 名であり、回答率は両年度とも 100% であった。

#### 【全体的な質問】

「満足できたもの」については、「研究室での卒論やゼミ」（H23:74%、H24:69%）、「友人との出会い」（H23:53%、H24:69%）の 2 つの割合が高い。これに、「先生との出会い」（両年度とも 44%）と「授業」（H23:42%、H24:25%）が続く。授業については、42%から 25%へと減少しているが具体的な理由を読み取る事はできない。「満足できなかったもの」については、「課外活動」（H23:27%、H24:38%）と「授業」（H23:32%、H24:38%）の割合が高い。課外活動については、具体的な内容を知る事はできない。

また「その他」として、「バイトと勉強の両立が難しかった。」（H24）とある。「教育施設（学習環境）は満足できるものでしたか」については、「満足できた」（H23:42%、H24:38%）と「ほぼ満足できた」（H23:47%、H24:56%）であり、双方の合計からすると、H23 年度は 89%、H24 年度は 94% であり概ね満足していると思われる。

#### 【転学部、転学科および転コース】

H23 年度、H24 年度ともに申請経験なしが 100%である。

#### 【受講科目の感想】

「満足できた授業数」については、年度ごとに多少のばらつきが見受けられる。H23 年度では「20-30」

(53%) が最も多く、次いで「10以下」(26%)と続いており、H24年度になると「10-20」(44%)が最も多く、次いで「20-30」(25%)となっている。「満足した理由」としては、両年度とも「専門分野の実力がついた」(H23:58%、H24:56%)が最も多くこれに、「親切で丁寧な授業であった」(H23:53%、H24:44%)、「教員の熱意が感じられた」(H23:26%、H24:31%)が続き、順位、割合とも年度による変化は少ない。

「満足できなかった授業の数」では、両年度とも「20-30」が26%であったが、H24年度では31%に増加している。「満足できなかった理由」については、「不親切で分かり難い授業だった」(H23:53%、H24:68%)が最も多く、15%の上昇がみられる。

#### 【標準履修モデル】

「基礎科目の配置」については、両年度とも「概ね配置されていた」(H23:53%、H24:75%)、「配置されていた」(H23:37%、H24:13%)の順で割合が高く、2つの項目の合計は、それぞれ、H23年度90%、H24年度88%と、概ね適切と判断されている。「専門科目の配置」についても同様であり、H23年度84%、H24年度88%と適切であると評価されている。

「教育目標の合致」については、両年度とも「概ね合致していた」(H23:75%、H24:74%)が最も多く、合致していないとする回答は20%程度であった。

#### 【専門科目への要望】

「より高度な授業内容への要望」については、「概ねその通りである」(H23:50%、H24:63%)が最も高く、「余そう思わない」(H23:25%、H24:21%)が続いており、約半数がより高度な授業内容を望んでいることが分かる。「難しい授業が多すぎるのでレベルを下げて欲しい」については、「余りそう思わない」(H23:58%、H24:63%)の割合が最も高く、前項目との整合性のある回答がなされている。

「実験実習や野外調査の時間を増やして欲しい」については、当コースでは、プログラミング演習や、ハードウェア実験などがこれに該当すると思われるが、上位2項目の「概ねその通りである」(H23:42%、H24:38%)と「余りそう思わない」(H23:37%、H24:50%)が年度により順位が逆転している。前質問項目の「レベルを下げて欲しい」の回答からすると、H24年度の方がより授業が難しいと感じており、それに対応する形でこれ以上の負担はさけたいという心理が読み取れる結果となっている。「社会に出て役立つ授業を増やして欲しい」についても、同様な傾向がみられ、「余りそう思わない」(H23:47%、H24:56%)が最も多く約半数を占めている。「全くその通りである」(H23:26%、H24:19%)と「概ねその通りである」(H23:26%、H24:13%)に関する具体的な記述としては、H23年度に9件の記入があり、その殆どが社会人に必要とされるコミュニケーション能力に関する内容であった。

#### 【成績評価】

「概ね適切であった」(H23:58%、H24:50%)、「適切であった」(H23:50%、H24:31%)という結果が得られており、両年度とも概ね適切な評価が行われているといえよう。

#### 【授業改革】

「授業科目数と内容」については、両年度とも「概ね適切である」(H23:58%、H24:81%)が最も割合が高いが、H23年度には「足りない」が26%あり、その理由として授業科目数が少なくほとんど全ての授業をとらなくてはならないことが挙げられていた。H24年度には6%に減少しているが、その理由としては、複数の教員が病気による入院、休職を余儀なくされた事や、教員の転出による開講科目の調整があった事に起因しており、H24年度には正常化された事が挙げられる。

#### 【アドバイザー教員制度】

「適切であった」(H23:63%、H24:69%)と「概ね適切であった」(H23:37%、H24:25%)の割合が高く、特に不満を感じていないようである。

#### 【自由意見】

H23年度には、メンタルな問題を抱えながらもアドバイザーや保健管理センターの心理カウンセラ

一による適切な指導により無事卒業研究を乗り越えて卒業できることを感謝する記述があった。また、3年次編入生と思われる卒業生からは「編入者にもやさしい教育制度を」という記述があった。これは恐らく単位認定に関するものであると推測する。H24 年度には、「今居る先生かは分かりませんが」という但し書きつきで、授業進行などに問題がある教員がいて、そういう授業に限ってアンケートがなかったという指摘があった。卒業生には何年も留年している学生も含まれており、これだけの情報でその教員を特定することは困難であるが、日常的に耳にする範囲では、少なくとも現員に該当者がいるとは思えない。

#### 【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年のアンケート結果を含めてみると全体的に教育環境の改善はなされており一定の効果が得られているといえよう。しかし、まだ不十分と思われるのが、「全体的な質問」に関する項目で「授業」に対する満足度が、70%を超える「研究室での卒論やゼミ」の満足度に比較して、H21:50%、H22:35%、H23:42%、H24:25%と、低めに推移している点である。理由としては、「不親切で分かり難い授業だった」(H23:53%、H24:68%)が挙げられている。特にH24年度については、「難しい授業が多すぎるのでレベルを下げて欲しい」については「余りそう思わない」が63%と前年度より高くなっており、「実験実習や野外調査の時間を増やして欲しい」、「社会に出て役立つ授業を増やして欲しい」などの回答では、共通して授業負担を避けようとする傾向が目立っている。これらを総合的に判断すると現状の学習内容を維持しながら、より深い理解を与える授業方法の工夫が望まれているといえよう。これについては、学生側の努力も必須ではあるが、今後とも各教員にて学生の現状に合わせた教育的配慮が必要である。

また、教育の充実度を向上させるには教員の質的な向上が必須であるが、その中には教育実践に必要な心身の健康を維持することが前提として含まれている。よく考えて無闇に仕事量を増やさない、特定の教員への過度な業務集中を避け極力平滑化する、相互にフォローしながら円滑に業務を遂行することなどに留意しつつ、より良い教育に向けての努力を行っていききたい。

### 応用化学コース

平成25年度アンケートにおいて分析を行う

#### 海洋生命・分子工学コース [23年度の数字に続いて24年度の数字を括弧内に示した]

卒業予定者35(42)名のうち23(24)名から回答を得た。回答率は66(57)%である。

【全般的な質問】 大学で満足したこととしては、「研究室での卒研やゼミ」が78(63)、「友人との出会い」が83(71)と上位となっていた。一方、満足できなかったこととして23年度は、授業17%、先生とのトラブル13%、親からの自立17%が上位を占めた。これに対して、24年度は課外活動33%、親からの自立17%、その他21%と、差異が見られた。教育研究施設(学習環境)については23年度と24年度、ともに「満足できた」か「ほぼ満足できた」が選ばれている。高知大学の設備の充実が、学生たちに広く支持されている結果である。また一方で、就職支援に関しては23年度と24年度、ともに「満足できた」か「ほぼ満足できた」が半数以上となっている。

#### 【理学部に関する質問】

転学部・転学科・転コースを希望した者は23(24)名中0(4)名であり、希望は受け入れられたとのことである。満足できた授業の数については23年度が「10~20」が43%で最も多く、24年度も「10~20」が33%と最も多かった。この分布は、概ね他コースと同様であった。満足した理由については「専門分野の実力がついた」「親切で丁寧」が多く、この傾向は他のコースとほぼ同様であった。満足できなかった授業の数については、「10~20」が39%(21)、「10以下」が48%(38)と大半を占めた。満足できなかった理由については「不親切でわかりにくい」「一方的な押し付け授業だった」が上位を占めた。

【標準履修モデル】 基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が30%(33)と61%(50)であり、ポジティブな回答であった。専門科目についても「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が22%(21)と61%(50)

であり、同様な傾向の回答であった。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには、「合致していた」「概ね合致していた」が13% (17) と74% (71) であり、満足すべき結果である。「より高度な授業をしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が17% (25) と52% (58) であり、今後の授業のレベルを上げる必要性が示唆されている。「実験実習の時間を増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおり」あるいは「概ねそのとおり」と答えた学生は、26% (25) と52% (50) であった。「社会で役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が22% (21) と48% (13) であり、今後は社会で役立つ応用的な授業を増やす必要性がある。

#### 【成績評価・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については、「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は、26% (21) と61% (50) であった。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては、「適切である」「概ね適切である」答えた学生は、26% (39) と70% (61) であった。アドバイザー教員の指導・支援については「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は、61% (58) と35% (33) であり、この制度の妥当性を支持している。

#### 【分析と今後の教育へのフィードバック】

大学で満足したこととしては、研究室での卒研やゼミと友人との出会いがと上位となっている。今後も、可能な限り卒論生を研究室に受け入れて、卒業実験の一層の充実が望まれる。理学部に関する質問では、授業の一層の改善に対する教員の一層の自助努力が必要となる。標準履修モデルでは、基礎科目と専門科目は肯定できであるが、今後の授業の質の向上が期待されているので、この点を中心として改善する必要がある。また、社会で役立つ授業が期待されているので、このような期待に沿った授業内容の改善が求められる。またアドバイザー制度は順調に機能している様子であり、継続したい。

## 災害科学コース

災害科学コース卒業予定者（平成22年度～平成24年度）に対するアンケートの回収率は86%、62%、95%であった。評価とフィードバックにあたり、改組前の防災科学コースの卒業予定者アンケート（平成21年度）との比較もしながら検討をおこなう。各設問の回答率は（平成21年度、平成22年度、平成23年度、平成24年度）の順番で示す。

#### 【全般的な質問】

『2 高知大での勉学や生活で満足できたもの』に対する回答でもっとも多かったのは年度によらず「友人との出会い」（88%、92%、85%、94%）でかなり高い。次に高いのは「研究室での卒研やゼミ」（63%、75%、77%、72%）である。これら2項目が高いのは他コースと同様である。「授業」（38%、21%、8%、11%）と「課外活動」（69%、42%、46%、33%）に対する満足度に平成21年度と平成22年度以降に差が見られる。一方、『3 高知大での勉学や生活で満足できなかったもの』の「授業」（62%、38%、31%、28%）に対する回答についても平成21年度とそれ以降では差がある。平成22年度以降は減少傾向が見られるが、卒業生数が多くないので1人の回答が数%の重みを持つのでほぼ一定の割合と見られる。授業に関して「満足できた」も「満足できなかった」も減少しているが、割合として「満足できなかった」は「満足できた」の2倍以上になっている。

『4 教育研究施設（学習環境）は満足できたか』については「満足できた」と「ほぼ満足できた」とを合わせると年度によらず90%を超えており、ほぼ満足を得られているものと思われる。

『5 高知大学の就職支援活動は満足できるか』については年度によらずほぼ50%前後である。専門分野の業種だけでなく広い業種へ就職している現状での就職支援をどのように充実させるかが課題である。

『6 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したか』については31%、21%、23%、50%で、平成24年度卒業予定者の半数がなんらかの形でボランティア活動に参加している。年度によらず「満足」と「ほぼ満足」を合わせるとほぼ100%である。

#### 【転学部、転学科および転コース】

回答が不完全な年度もあるが、85%以上が第一希望コースとしていた。

#### 【受講科目の感想】

『10 満足できた授業数』では「40 以上」(6%、25%、8%、22%)、「30-40」(22%、21%、38%、17%)、「20-30」(38%、17%、46%、17%)、「10-20」(34%、13%、0%、39%)、「10 以下」(0%、25%、8%、6%)と年度により変動がある。「40 以上」と「30-40」という回答を合わせた比較的満足できた授業数が多い回答者の割合は、平成 22 年度以降はおおよそ 40%程度で一定である。平成 24 年度で「10-20」が増えたのが目立つ。また、『11 満足できた理由』に対する回答は年度によりばらつきがあるが、「実力がついた」(71%、54%、62%、28%)と「親切で丁寧な授業」(35%、67%、23%、44%)とする回答が多い。平成 24 年度については「実力がついた」の割合が減少している。

『12 満足できなかった授業数』では「40 以上」(0%、6%、0%、0%)、「30-40」(3%、0%、8%、6%)、「20-30」(6%、38%、15%、17%)、「10-20」(19%、44%、31%、28%)、「10 以下」(72%、13%、46%、50%)と年度により変動があるが、半数近くは「10 以下」である。『13 満足できなかった理由』も年度によるばらつきがあるが、「親切で丁寧な授業」(30%、54%、54%、50%)が不満な理由の第一位である。平成 24 年度では「一方的な押しつけ授業だった」(40%、2%、15%、28%)が増えているが、他コースとの比較では低い方から 2 番目である。『内容が古すぎる』(0%、0%、0%、6%(1人))を理由とするものはほぼいない。

#### 【標準履修モデル】

『14 基礎科目は適切に配置されていたか』、『15 専門科目は適切に配置されていたか』、『教育目標と標準履修モデルと合致していたか』については年度によらずほぼ 90%近くが肯定的な回答(「配置されていた」「概ね配置されていた」)をしている。

#### 【専門科目への要望】

『17より高度な授業内容を実施してほしい』については「全くその通りである」と「概ねそのとおりである」を合わせた割合は53%、84%、92%、73%と、平成21年度と平成22年度以降には差が見られる。『18 難しいのでレベルを下げしてほしい』については「全くその通りである」と「概ねそのとおりである」を合わせた割合は25%、58%、54%、50%となっており、この設問に対しても平成21年度と平成22年度以降で差が見られる。

『19実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい』については年度によらず80%前後の学生が増加を要望している。

『20社会に役立つ授業を増やしてほしい』については年度にかかわらず半数近くの学生が要望をしているが、「全くそのとおりである」(25%、33%、38%、44%)が少し増えているように見える。具体的な要望の内容は必ずしも『専門科目』への要望とは言えないが、共通して企業研究、社会人としてのマナー、一般教養といったものが見られる。

#### 【成績評価】

『22成績評価は適切であったか』については年度によりばらつきがあるが「適切であった」と「概ね適切であった」という肯定的な評価が多い(69%、96%、70%、95%)。

#### 【授業改革】

『23 授業科目数と内容は適切であったか』については「適切であった」と「概ね適切であった」を合わせると 94%、96%、77%、100%とほぼ年度によらずに肯定的な評価である。『24 どのような授業を増やせば(減らせば)よいか』については平成 24 年度アンケートでは無記入であった。平成 21 年から平成 23 年で共通の要望は見られない。

#### 【アドバイザー教員制度】

『24アドバイザー教員の指導・支援は適切であったか』についてはほぼ肯定的な回答(94%、84%、77%、94%)であった。平成23年度および平成24年度では「適切でなかった」は0%であった。

#### 【自由意見】

『26 教育全般についての意見』については平成 23 年度および平成 24 年度については要望としての記述はなかった。平成 22 年度については授業の難易度のばらつき、卒業研究の評価に対する

要望が見られた。

#### 【分析と今後の教育へのフィードバック】

平成21年度卒業生（旧課程）アンケートと平成22年度（新課程）以降のアンケートで系統的に差が見られる項目がある。入試制度・コース分属の制度変更により分属者の数だけでなく質の変化も反映しているのかもしれない。『(全般的な質問) 満足できたもの』と『(全般的な質問) 満足できなかったもの』で「授業」に対する旧課程と新課程での回答に差があり、いずれも新課程で低くなっている。設問が複数回答可とするものであるので、「授業」に対する関心が良くも悪くも相対的に低くなっていることを反映しているのかもしれない。割合として「授業に満足できない」は「授業に満足」の2倍以上あるのでこの点については共通教育を含めて検討の余地がある。

また、『(専門科目への要望) 高度な授業内容を希望』と『(専門科目への要望) レベルを下げてほしい』についても旧課程と新課程で差が見られ、問いを肯定する回答が新課程で高くなっている。『専門科目の内容や難易度において適切に配置されているか』や『教育目標は標準履修モデルと合致しているか』に対する回答は年度によらず90%以上が肯定的な回答である。「(理学部開講科目) 満足できた授業数」の項目では20以上という回答で見ると年度によるばらつきはあるがほぼ50%以上であるが、30以上とした回答は平成22年度以降で上昇している。「(理学部開講科目) 満足できなかった授業数」が20以上との回答も平成22年度以降は増えて20%台あるが、10以下という回答は平成23年度と平成24年度では75%程度である。これらから専門科目のレベルについては多くの学生が現状あるいはそれ以上を希望しているが、難解に感じている学生も一定程度存在していることがわかる。『満足できた』理由で平成24年度は「実力がついた」が減少した点、『満足できなかった』理由で「不親切でわかり難い授業」が平成22年度以降50%を超えている点が改善点として上げられる。対応策の1つとして、学習に困難さを感じている学生に対し大学院生による学習支援プログラムの周知をはかる必要がある。さらに、『(全般的な質問) 満足できたもの』で「研究室での卒研やゼミ」が70%台であるのでここをもう少し上げて行く必要がある。

『実験実習を増やす』は年度に関係なく希望の多い項目であるが、現状のカリキュラムや要卒単位のしほりからは難しい状況にある。また、実験レポートを書くのが大変だから実験は選択しないという学生も一方で増えており、安易に増やすのではなくレポートの書き方指導も含めて少ないながら充実させる方向での検討も必要である。また、『社会に出て役立つ授業を増やす』についても年度に関係なく半数以上が希望しているが、その具体的な記述内容を見ると必ずしも専門科目への要望にはあたらぬものも見られる。企業研究やビジネスマナーなどは、別途就職支援としておこなわれているが出席率が悪いのでさらに周知する必要がある。

## Ⅱ. 集計結果

### 【所属】

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。
  - A. 数学（数理科学）コース
  - B. 物理科学（物質基礎科学）コース
  - C. 化学コース
  - D. 生物科学コース
  - E. 地球科学（地球史環境科学）コース
  - F. 情報科学コース
  - G. 応用化学コース（物質変換科学）
  - H. 海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース
  - I. 災害科学（防災科学）コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業者数	65	15	16	53	14	16	27	42	19	257
回収件数	60	4	15	38	13	16	20	24	18	208
回収率(%)	92	27	94	72	93	100	74	57	95	81

### 【全般的な質問】

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。（複数回答可）
  - A. 授業
  - B. 研究室での卒研やゼミ
  - C. 先生との出会い
  - D. 友人との出会い
  - E. 課外活動
  - F. 親からの自立
  - G. その他（ ）

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学（数理科学）コース	20(33)	43(72)	31(52)	42(70)	15(25)	23(38)	2(8)
物理科学（物質基礎科学）コース	2(50)	4(100)	3(75)	3(75)	2(50)	1(25)	0(0)
化学コース	4(27)	10(67)	7(47)	12(80)	3(20)	2(13)	0(0)
生物科学コース	16(42)	26(68)	25(66)	35(92)	17(45)	4(11)	0(0)
地球科学(地球史環境科学)コース	2(15)	12(92)	13(100)	12(92)	5(38)	3(23)	0(0)
情報科学コース	4(25)	11(69)	7(44)	14(88)	3(19)	2(13)	0(0)
応用化学（物質変換科学）コース	7(35)	18(90)	10(50)	17(85)	6(30)	4(20)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9(38)	15(63)	10(42)	15(71)	8(33)	5(21)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	2(11)	13(72)	10(56)	17(94)	6(33)	7(88)	0(0)
計	66(31)	152(73)	116(56)	167(80)	62(31)	51(25)	2(1)

数学(数理科学)コース

- ・ 部活動

- ・ サークル活動
- 生物科学コース
  - ・ 特にない。/特になし/なし
  - ・ あまり遊んでなかったような気がする。
  - ・ 健康面
- 情報科学コース
  - ・ 四国での生活

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生とのトラブル D. 友人とのトラブル  
E. 課外活動 F. 親からの自立 G. その他 ( )

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学(数理科学)コース	20(33)	1(2)	1(2)	4(7)	14(23)	7(12)	4(7)
物理科学(物質基礎科学)コース	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(25)	2(50)	0(0)
化学コース	2(13)	2(13)	1(7)	3(20)	1(7)	4(27)	1(7)
生物科学コース	11(37)	3(8)	3(8)	2(5)	19(50)	6(16)	7(18)
地球科学(地球史環境科学)コース	4(31)	1(8)	0(0)	1(8)	2(15)	1(8)	2(15)
情報科学コース	6(38)	1(6)	0(0)	1(6)	6(38)	2(13)	2(13)
応用化学(物質変換科学)コース	5(25)	0(0)	0(0)	2(10)	7(35)	2(10)	2(10)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	2(8)	4(17)	2(8)	2(8)	8(33)	2(21)	2(21)
災害科学(防災科学)コース	5(28)	0(0)	1(6)	1(6)	6(33)	0(0)	0(0)
計	55(26)	12(6)	8(4)	16(8)	64(31)	26(13)	20(10)

数学(数理科学)コース

- ・ なし/特になし/ありません。
- ・ 寮生活

物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ なし

化学コース

- ・ なし。

生物科学コース

- ・ 特にない。

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ 交通の便の悪さ
- ・ 特になし

## 情報科学コース

- ・ バイトと勉強との両立が難しかった。
- ・ 食堂の値段。

## 応用化学コース(物質変換科学)

- ・ なし。
- ・ 特になし。
- ・ 悔いはない。

## 海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 履修方法。
- ・ なし/特になし

## 4. 教育研究施設(学習環境)は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた                      B. ほぼ満足できた  
C. あまり満足できなかった      D. 満足できなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	17(28)	37(62)	6(10)	0(0)
物理科学(物質基礎科学)コース	17(28)	37(62)	6(10)	0(0)
化学コース	3(20)	11(73)	1(7)	0(0)
生物科学コース	11(29)	21(55)	5(13)	1(3)
地球科学(地球史環境科学)コース	6(46)	6(46)	1(8)	0(0)
情報科学コース	6(38)	9(56)	1(6)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	3(15)	16(80)	1(5)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	8(33)	14(58)	1(4)	0(0)
災害科学(防災科学)コース	6(33)	10(56)	2(11)	0(0)
計	61(29)	127(61)	18(9)	1(0)

## 5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた                      B. ほぼ満足できた  
C. あまり満足できなかった      D. 満足できなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	14(23)	33(55)	8(13)	4(7)
物理科学コース(物質基礎科学)	1(25)	1(25)	2(50)	0(0)
化学コース	1(7)	8(53)	2(13)	1(7)
生物科学コース	7(18)	16(42)	8(21)	5(13)

地球科学（地球史環境科学）コース	3(23)	4(31)	3(23)	1(8)
情報科学コース	2(13)	8(50)	4(25)	1(6)
応用化学(物質変換科学)コース	4(20)	10(50)	3(15)	1(5)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	8(33)	9(38)	6(25)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	5(28)	5(28)	5(28)	3(17)
計	45(22)	94(45)	41(20)	16(8)

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある      B. ない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. ある	B. ない
数学（数理科学）コース	19(32)	41(68)
物理科学(物質基礎科学)コース	0(0)	4(100)
化学コース	8(53)	7(47)
生物科学コース	9(24)	29(76)
地球科学（地球史環境科学）コース	4(31)	9(69)
情報科学コース	6(38)	10(63)
応用化学(物質変換科学)コース	4(20)	16(80)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9(38)	14(58)
災害科学（防災科学）コース	9(50)	9(50)
計	68(33)	139(67)

7. 「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた      B. ほぼ満足できた  
C. あまり満足できなかった      D. 満足できなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	9(47)	7(37)	2(11)	1(5)
物理科学(物質基礎科学)コース	-	-	-	-
化学コース	6(75)	2(25)	0(0)	0(0)
生物科学コース	5(56)	2(22)	1(11)	0(0)

地球科学（地球史環境科学）コース	2(50)	2(50)	0(0)	0(0)
情報科学コース	2(33)	4(67)	0(0)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	2(50)	1(25)	1(25)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	3(33)	4(44)	0(0)	2(22)
災害科学（防災科学）コース	5(56)	4(44)	0(0)	0(0)
計	34(50)	26(38)	4(6)	3(4)

続いて理学部に関する質問です。

【転学部、転学科および転コース】

8. あなたは転学部・転学科・転コースの申請をしたことがありますか。

A. はい B. いいえ

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. はい	B. いいえ
数学（数理科学）コース	1(2)	59(98)
物理科学(物質基礎科学)コース	0(0)	4(100)
化学コース	0(0)	15(100)
生物科学コース	3(8)	35(92)
地球科学（地球史環境科学）コース	0(0)	12(92)
情報科学コース	0(0)	16(100)
応用化学(物質変換科学)コース	2(10)	18(90)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	4(17)	18(75)
災害科学（防災科学）コース	0(0)	18(100)
計	10(5)	195(94)

9. あると答えた方だけに質問します。申請は受け入れられましたか。

A. はい B. いいえ

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. ある	B. ない
数学（数理科学）コース	1(100)	0(0)
物理科学(物質基礎科学)コース	-	-
化学コース	-	-

生物科学コース	3(100)	0(0)
地球科学（地球史環境科学）コース	-	-
情報科学コース	-	-
応用化学（物質変換科学）コース	2(100)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	4(100)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	-	-
計	(100)	0(0)

## 【受講科目の感想】

10. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）の印象をお聞きます。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40以上 B. 30-40 C. 20-30 D. 10-20 E. 10以下

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. 40以上	B. 30-40	C. 20-30	D. 10-20	E. 10以下
数学（数理科学）コース	8(13)	18(30)	19(32)	12(20)	3(5)
物理科学（物質基礎科学）コース	1(25)	0(0)	0(0)	1(25)	2(50)
化学コース	3(20)	1(7)	6(40)	4(27)	1(7)
生物科学コース	5(13)	8(21)	7(18)	13(34)	5(13)
地球科学（地球史環境科学）コース	1(8)	2(15)	4(31)	3(23)	2(15)
情報科学コース	1(6)	3(19)	4(25)	7(44)	1(6)
応用化学（物質変換科学）コース	3(15)	5(25)	1(5)	10(50)	1(5)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	3(13)	4(17)	6(25)	8(33)	3(13)
災害科学（防災科学）コース	4(22)	3(17)	3(17)	7(39)	1(6)
計	29(14)	44(21)	50(24)	65(31)	19(9)

11. 満足した理由を下記より選んでください。（複数回答可）

A. 専門分野の実力がついた B. 親切で丁寧な授業であった C. 教材を工夫していた  
D. 教員の熱意が感じられた E. 授業が一方的でなかった F. 授業内容が斬新だった  
G. その他（具体的に書いてください）

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学（数理科学）コース	38(63)	40(67)	7(12)	20(33)	13(22)	9(15)	1(2)
物理科学（物質基礎科	4(100)	4(100)	1(25)	1(25)	1(25)	0(0)	0(0)

学) コース							
化学コース	8(53)	11(73)	1(7)	3(20)	1(7)	1(7)	0(0)
生物科学コース	23(61)	20(53)	7(18)	19(50)	7(18)	5(13)	0(0)
地球科学(地球史環境科学) コース	12(92)	6(46)	1(8)	5(38)	1(8)	1(8)	0(0)
情報科学コース	9(56)	7(44)	2(13)	5(31)	2(13)	4(24)	0(0)
応用化学(物質変換科学) コース	16(80)	10(50)	1(5)	7(35)	0(0)	5(25)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学) コース	14(58)	15(63)	4(17)	14(58)	7(29)	5(21)	0(0)
災害科学(防災科学) コース	5(28)	8(44)	4(22)	6(33)	3(17)	2(11)	0(0)
計	129(62)	121(58)	28(13)	80(38)	35(17)	32(15)	1(0)

#### 数学(数理科学)コース

- ・ 特にない。

12. 理学部開設授業(講義、実験、演習、セミナー)のうち、満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

- A. 40 以上    B. 30-40    C. 20-30    D. 10-20    E. 10 以下

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. 40 以上	B. 30-40	C. 20-30	D. 10-20	E. 10 以下
数学(数理科学) コース	2(3)	0(0)	11(18)	11(18)	36(60)
物理科学(物質基礎科学) コース	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	4(100)
化学コース	0(0)	0(0)	0(0)	6(40)	9(60)
生物科学コース	3(8)	2(5)	2(5)	14(37)	16(42)
地球科学(地球史環境科学) コース	0(0)	0(0)	1(8)	4(31)	7(54)
情報科学コース	1(6)	1(6)	3(19)	5(31)	5(31)
応用化学(物質変換科学) コース	0(0)	4(20)	0(0)	3(15)	13(65)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学) コース	1(4)	2(8)	6(25)	5(21)	9(38)
災害科学(防災科学) コース	0(0)	1(6)	3(17)	5(33)	9(50)
計	7(3)	10(5)	26(13)	53(25)	108(52)

13. 満足しなかった理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 実力がつかなかった                      B. 不親切でわかり難い授業だった  
 C. 教材の工夫が見られなかった            D. 教員の熱意が感じられなかった  
 E. 一方的な押し付け授業だった            F. 内容が古すぎた

G. 内容は新しいが断片的だった

H. その他（具体的に書いてください）

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G	H
数学（数理科学）コース	17(28)	34(57)	6(10)	7(12)	27(45)	0(0)	4(7)	2(3)
物理科学（物質基礎科学）コース	2(50)	0(0)	0(0)	1(25)	2(50)	0(0)	1(25)	0(0)
化学コース	5(33)	11(73)	3(20)	1(7)	7(47)	2(13)	1(7)	0(0)
生物科学コース	12(32)	16(42)	7(47)	10(26)	12(32)	1(3)	7(18)	1(3)
地球科学（地球史環境科学）コース	4(30)	8(62)	2(13)	4(31)	5(38)	0(0)	2(15)	0(0)
情報科学コース	7(43)	11(68)	6(4)	2(13)	5(31)	1(6)	1(6)	0(0)
応用化学（物質変換科学）コース	4(20)	12(60)	2(13)	4(20)	9(45)	3(15)	4(20)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	8(33)	3(13)	5(33)	5(21)	5(21)	1(4)	2(8)	2(8)
災害科学（防災科学）コース	2(11)	9(50)	2(13)	2(11)	5(28)	1(6)	4(22)	1(6)
計	61(29)	104(50)	33(16)	36(17)	77(37)	9(4)	26(13)	6(3)

数学(数理科学)コース

- ・ 理学部に厳しい、ひいきのあるものがあつた。
- ・ 自己満足な授業だった。
- ・ 受講生がうるさかつた。

生物科学コース

- ・ 黒板に書く字が読めない教員がいた。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 表面的な内容だけの講義が多かつた。
- ・ 勉強する意味が分からなかつた。
- ・ なし。

【標準履修モデル】

14. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されておりましたか。

- A. 配置されていた                      B. 概ね配置されていた  
C. 余り配置されていなかった      D. 配置されていなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	24(42)	35(58)	1(2)	0(0)
物理科学（物質基礎科学）コース	3(75)	0(0)	1(25)	0(0)
化学コース	3(20)	12(80)	0(0)	0(0)
生物科学コース	12(32)	21(55)	3(8)	3(8)

地球科学（地球史環境科学）コース	5(38)	5(38)	3(23)	0(0)
情報科学コース	2(13)	12(75)	2(13)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	6(30)	14(70)	0(0)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	8(33)	12(50)	3(13)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	4(22)	12(67)	2(11)	0(0)
計	67(32)	123(59)	15(7)	3(1)

15. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

- A. 配置されていた                      B. 概ね配置されていた  
C. 余り配置されていなかった      D. 配置されていなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	23 (38)	36 (60)	1 (2)	0 (0)
物理科学(物質基礎科学)コース	1 (25)	2(50)	1(25)	0 (0)
化学コース	2 (13)	11(73)	2(13)	0 (0)
生物科学コース	9 (24)	20(53)	3(8)	3(8)
地球科学（地球史環境科学）コース	5 (38)	8(62)	0(0)	0 (0)
情報科学コース	1 (6)	15(94)	0(0)	0 (0)
応用化学(物質変換科学)コース	8 (40)	11(55)	0(0)	1(5)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	5 (21)	16(67)	3(13)	0 (0)
災害科学（防災科学）コース	3 (17)	13(72)	1(4)	0 (0)
計	57(27)	132(63)	11(5)	4(2)

16. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

- A. 合致していた                      B. 概ね合致していた  
C. 余り合致していなかった      D. 合致していなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	11(18)	42(70)	7(12)	0(0)
物理科学(物質基礎科学)コース	1(25)	3(75)	0(0)	0(0)
化学コース	4(27)	9(60)	2(13)	0(0)

生物科学コース	6(16)	27(71)	2(5)	1(3)
地球科学（地球史環境科学）コース	4(31)	9(69)	0(0)	0(0)
情報科学コース	1(6)	12(75)	3(19)	0(0)
応用化学（物質変換科学）コース	5(25)	14(70)	1(5)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	4(17)	17(71)	2(8)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	3(17)	14(78)	1(6)	0(0)
計	40(19)	148(71)	18(9)	1(0)

## 【専門科目への要望】

17. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである    B. 概ねそのとおりである  
C. 余りそう思わない        D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	10(17)	19(32)	31(52)	0(0)
物理科学（物質基礎科学）コース	0(0)	2(50)	2(50)	0(0)
化学コース	0(0)	11(73)	4(27)	0(0)
生物科学コース	6(16)	21(55)	9(24)	2(5)
地球科学（地球史環境科学）コース	1(8)	9(69)	3(23)	0(0)
情報科学コース	3(19)	8(50)	4(25)	1(6)
応用化学（物質変換科学）コース	5(25)	12(60)	2(10)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	6(25)	14(58)	4(17)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	1(6)	12(67)	4(22)	1(6)
計	32(15)	108(52)	63(30)	4(2)

18. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである    B. 概ねそのとおりである  
C. 余りそう思わない        D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	5(8)	15(25)	31(52)	9(15)

物理科学(物質基礎科学)コース	0(0)	1(25)	2(50)	1(25)
化学コース	0(0)	4(27)	10(67)	1(7)
生物科学コース	5(13)	11(29)	17(45)	5(13)
地球科学(地球史環境科学)コース	0(0)	1(8)	9(69)	3(23)
情報科学コース	0(0)	3(19)	13(81)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	0(0)	1(5)	14(70)	5(25)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	2(8)	7(29)	9(38)	6(25)
災害科学(防災科学)コース	2(11)	7(39)	8(44)	1(6)
計	14(7)	50(24)	113(54)	31(15)

19. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである      B. 概ねそのとおりである  
C. 余りそう思わない          D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	7(12)	17(28)	23(38)	12(20)
物理科学(物質基礎科学)コース	2(50)	0(0)	1(25)	1(25)
化学コース	2(13)	7(47)	4(27)	2(13)
生物科学コース	11(29)	19(50)	7(18)	1(3)
地球科学(地球史環境科学)コース	6(46)	5(38)	2(15)	0(0)
情報科学コース	2(13)	6(38)	8(50)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	3(15)	14(70)	3(15)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	6(25)	12(50)	3(13)	2(8)
災害科学(防災科学)コース	7(39)	7(39)	2(11)	1(6)
計	46(22)	87(42)	50(25)	19(9)

20. 「社会に出て役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである      B. 概ねそのとおりである  
C. 余りそう思わない          D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学 (数理科学) コース	20(33)	13(22)	21(35)	6(10)
物理科学 (物質基礎科学) コース	2(50)	0(0)	0(0)	2(50)
化学コース	3(20)	5(33)	6(40)	1(7)
生物科学コース	7(18)	10(26)	17(45)	2(5)
地球科学 (地球史環境科学) コース	5(38)	0(0)	8(62)	0(0)
情報科学コース	3(19)	2(13)	9(56)	2(13)
応用化学 (物質変換科学) コース	2(10)	6(30)	11(55)	1(5)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	5(21)	3(13)	14(58)	2(8)
災害科学 (防災科学) コース	8(44)	2(11)	6(33)	1(6)
計	55(26)	41(20)	92(44)	17(8)

21. A あるいは B を選択した人にお聞きします。社会に出て役に立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

#### 数学 (数理科学) コース

- ・ 考え方や企業について
- ・ 実世界でどう利用されているとか
- ・ 相手に伝わりやすい、又は、相手に合わせた話し方や言葉を使う
- ・ 働いている人の話とか
- ・ 授業外で多く学べているので不満は無いが、授業でも、大学生の社会への甘さなどを少し厳しく指導してほしい。
- ・ コミュニケーションの取りやすい環境にしてほしい。教官と学生の距離を縮めてほしい
- ・ 就職に役立つこと
- ・ 即戦力の技術力や学力
- ・ 人としてあるべき姿、身につけるべき知識、考え方
- ・ 地域住民一人一人が幸福を感じることに
- ・ コミュニケーション能力を高めるなど社会人になって役立つような言葉
- ・ 上下関係
- ・ 数学ソフトの活用
- ・ 資格取得や一般常識など
- ・ 実際に学生が主体となることができる講義が望ましい
- ・ 企業や会社に入っても使える能力を身につける
- ・ 「ゆとり世代だ」と言われている私たちは、「常識がない」などと言われて言います。実際、挨拶や時間を守ることができない(遅刻や欠席)も少なくないと思います。そこで社会のルールや秩序などを学ぶという立場は大学で終わりだと思うので、取り入れてみても面白いと思います
- ・ 広く言えば、数学的知識だが、数学の授業はすでにそれを盛り込んであるので、あとは学生の使い方(知識)次第なので、どちらかというと、今の盛り込んである授業に概ね満足という意見です

- ・ 実際に数学というものが、今後直接的に使うことはないにしろ、この考え方がどの場面で使われているのか知りたいと思った
- ・ 社会に出たときに、直接使える事や内容が少なく、職業を決めるときに、大学での授業を生かした職業が少なかった。
- ・ 就職活動中に他の人に数学について説明するときに困ったので、この公式は「社会にでてこの部分が役立つ」など
- ・ プレゼンなど、自分の意見を発表する場の提供。
- ・ 常識的な事や身の回りで起きている事の解説など。
- ・ 実際に会社に入った時に役立つ知識が技術。具体的には、プログラミングやExcel、wordなどのパソコン技術取得の為の授業など。
- ・ 経済学
- ・ 講師を目指しているので、高校や中学との関連をもっと詳しく説明していただければありがたいと思います。
- ・ エクセルを使いこなせるようになる授業など。
- ・ 実習。
- ・ 社会人として身につけておくべき一般常識が学べる授業があれば良いと思う。

#### 物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ 例えば、インターンなどを行うと単位が認定される等。
- ・ 基礎的な学力、プレゼン能力、文書作成など。

#### 化学コース

- ・ コミュニケーション能力、また、情報収集能力。
- ・ 実際に会社などで使用すると思われる実験。
- ・ 現在の経済、社会情勢などを取り込んだ授業。
- ・ 一般教育といっても結構専門的な事が多かったので、一般常識。習うまでもないかもしれませんが。
- ・ プレゼンテーション能力。実際に行われている研究に準じた実験や講義など。
- ・ グループワークや発表する機会を増やす。

#### 生物科学コース

- ・ コミュニケーション能力の向上。
- ・ プレゼン能力。
- ・ グループ学習など、他人とのコミュニケーションやプレゼン能力をつけること。
- ・ どの部分で利用するかや生活とつながる部分など。
- ・ アルバイト体験とか。
- ・ 対人、対話力。
- ・ 社会参加型の授業。
- ・ 地元民とのふれあいが多いい授業。
- ・ 文章力、対話力、プレゼンテーション能力。
- ・ 自分で考えて課題を設定し、それを解決する授業。
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 自己啓発。
- ・ 社交力。

#### 地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ マナー講座。
- ・ コミュニケーション力育成講座。

- ・ 例えば、メールの作成方法、目上の方に対するふるまいについて。
- ・ 例えば、理系学生は、文系学生に比べて、時事・社会経済など学ぶ機会が少ないため、教養でもいいので、理系向けの社会授業？があると、よりよくなるのではないか？
- ・ プレゼンの技能、及び、ポスター発表などの技能付きのもの。
- ・ ポキャブラが身に付くもの。

#### 情報科学コース

- ・ チームで取り組み、一つの事を達成すること等。
- ・ 共同作業。
- ・ 役に立つと思えたものがなかったので分かりません。

#### 応用化学コース(物質変換科学)

- ・ プレゼン能力を鍛える授業。
- ・ 様々な研究をする人や会社の人のお話を聞く機会を増やしてほしい。
- ・ 現代社会にどのような人材が求められているかを示し、どうすればそのような人材になれるのかを追求する授業。
- ・ 化学分野などで今、注目を浴びているものなど情勢が知れる情報を授業に盛り込んでほしいです。
- ・ 私はまだ学生で社会について未熟です。社会に出ている先生方が考えるべきだと思います。

#### 海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 教職を目指す上での理科の指導法や実験。
- ・ それを教えてください。
- ・ 社会ではどのようなことが求められているのか、大学生と社会人では求められる事がどう違うのか等、自覚を促すような指導。
- ・ 発表
- ・ マナー
- ・ プレゼン
- ・ プレゼンの授業など…もっと評価を厳しくすべき。
- ・ 分からないから教えてくださいものだと思う。まだ社会を知らないのです。

#### 災害科学(防災科学)コース

- ・ プレゼンテーション能力。
- ・ 正解の無い問題への対応能力。
- ・ 人間性や社会性を基本とした授業。
- ・ 社会に出る為に必要な知識。
- ・ 簡単なハッキングの仕方。
- ・ マナーについて。
- ・ 社会貢献
- ・ 一般教養に、社会人から話を聞ける授業。
- ・ コミュニケーション能力の向上など。
- ・ 常識なもの？

#### 【成績評価】

22. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった                      B. 概ね適切であった  
C. 適切でない授業もあった        D. 適切でない授業がたくさんあった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学 (数理科学) コース	15(25)	36(60)	9(15)	0(0)
物理科学 (物質基礎科学) コース	1(25)	0(0)	3(75)	0(0)
化学コース	4(27)	9(60)	2(13)	0(0)
生物科学コース	7(18)	26(68)	4(11)	1(3)
地球科学 (地球史環境科学) コース	4(31)	7(54)	1(8)	0(0)
情報科学コース	3(19)	8(50)	5(31)	0(0)
応用化学 (物質変換科学) コース	7(35)	12(60)	1(5)	0(0)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	5(21)	12(50)	7(29)	0(0)
災害科学 (防災科学) コース	7(39)	10(56)	0(0)	1(6)
計	53(25)	120(58)	32(15)	2(1)

## 【授業改革】

23. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか。

- A. 適切である    B. 概ね適切である  
C. 足りない      D. 多すぎる

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学 (数理科学) コース	18(30)	38(63)	3(5)	0(0)
物理科学 (物質基礎科学) コース	1(25)	2(50)	1(25)	0(0)
化学コース	2(13)	13(87)	0(0)	0(0)
生物科学コース	7(18)	27(71)	2(5)	1(3)
地球科学 (地球史環境科学) コース	3(23)	9(69)	1(8)	0(0)
情報科学コース	2(13)	13(81)	1(6)	0(0)
応用化学 (物質変換科学) コース	8(40)	9(45)	3(15)	0(0)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	5(21)	13(54)	5(21)	0(0)
災害科学 (防災科学) コース	7(39)	11(61)	0(0)	0(0)
計	53(25)	135(65)	15(8)	1(0)

24. C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ 選択の幅が狭い
- ・ 順調にいけば、3 回生時がひまになってしまう。応用数学のような他の授業に触れつつも、他の授業とは内容が少し違うような授業があればいいと思う。
- ・ 受けたい授業が他の授業とかぶってしまっているので受けたくても受けられない。

物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ 実習をもっと増やし、意欲がある者の学力を延ばす方向に向かえば良いと思う。しかし、意欲が無い者は履修しないのでそこが問題でもある。

生物科学コース

- ・ 災害の授業を増やすべき。
- ・ 就職関連でかなり授業が圧迫されていた印象です。教養系を減らすか、資格関連での必須を減らすかのどちらかかと。

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ 単位が取りにくい授業を増やした方がいい。(みんなが勉強すると思うから)
- ・ 基礎が少なく、急に応用などになるものがあるため、基礎を増やしてほしい。

情報科学コース

- ・ 実技に関する授業を増やせば良いと思います。

応用化学コース(物質変換科学)

- ・ 物理と無機。
- ・ 分析機器(分光器など)の機器の原理などの授業。
- ・ 履修できる上限科目が非常に少ない。
- ・ 高分子の授業をもっと増やしてほしいです。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 卒業論文を指導する教官が自分の研究について教える科目が少ないので増やしてほしい。
- ・ 受けたい授業はたくさんあったが、時間がかぶりすぎて取れない。
- ・ 研究室に配属されるまでに、実験を行う授業をもう少し多く開講してほしい。
- ・ 実験実習。

【アドバイザー教員制度】

25. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

- A. 適切であった      B. 概ね適切であった  
C. 余り適切でなかった      D. 適切でなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	44(73)	13(22)	3(5)	0(0)
物理科学(物質基礎科学)コース	4(100)	0(0)	0(0)	0(0)
化学コース	7(47)	6(40)	2(13)	0(0)
生物科学コース	21(55)	12(32)	2(5)	1(3)
地球科学(地球史環境科学)コース	11(85)	2(15)	0(0)	0(0)
情報科学コース	11(69)	4(25)	0(0)	1(6)

応用化学(物質変換科学)コース	12(60)	8(40)	0(0)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	14(58)	8(33)	0(0)	0(0)
災害科学(防災科学)コース	13(72)	4(22)	1(6)	0(0)
計	137(66)	57(27)	8(4)	2(1)

26. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

#### 数学(数理科学)コース

- ・ 特になし。
- ・ 理学部だからといって、生物、物理等を受講しても「暗記」みたいになって力がつかなかった。もっと役立つような「理学部」らしいものにしてほしかった。(=自分の専門外も少し興味を持ちたかった)
- ・ 数学コースの先生方はみんな親切で、丁寧に熱心に指導してくださいました。4 年間、ありがとうございました♡
- ・ 食堂をもう一つ作って、昼の込み具合を減らしてほしい。
- ・ 各学部で評価が違う先生がいる。
- ・ このままでいいと思う。
- ・ 教職科目の教育(指導案の書き方等)をもっとしっかりやってほしい。
- ・ 高知県自体がもっと都会化すればいいのと思いました。4 年間とっても楽しかったです。
- ・ 自分たちが学びたいことと授業の差がありました。(一部)
- ・ 一回生入学時のアドバイザー教員が他コースの教員で話が全然聞けなかったのが、入学時にある程度こちらの希望を聞いてもいいかと思う。あと、教養科目の単位認定が雑すぎる。
- ・ 教育学部の先生に授業中「理学部が嫌い」と言われたことがある。思うのは自由だが、授業中に言うことではない。そんな人に教育学を学びたくない。
- ・ 教育実習へ行く学生に対して、模擬授業や指導案を書く機会を増やした方がいいと思います。板書きが早かったり消すのが早くて写すのが大変だった。
- ・ 「中等教育」の授業で。初めての授業の時、「なぜ、こんなに理学部が多いのか分からない」、「理学部は何しているか(遊んでいる)分からない人が多く、まじめにうける人が少ない」と言われた。先生になるために「がんばろう」と思ったが、初めての授業を受けた時から、やる気を失った。その授業を取らなければならず、その先生しかいなかったのが、とても残念だった。その先生は来年からいないが、過去に実績があるからといって、初めの授業で不快な思いをさせなくてもいいと思った。
- ・ 数学コースの学生は、専門の授業でもやる気の無い人(騒ぐ人等)が多いように感じます。教授方の講義に特に問題があるとは思いますが、その点では、もっと講義等を分かりやすくする必要のあるのかもしれない。
- ・ 私は私生活も学生生活も満足できるものでした。先生方の指導もいつも熱心で、感謝しています。

#### 物理科学(物質基礎科学)コース

- ・ 地方国立ならではの教育方針、コミュニケーションの密度、風土が活かされていると思います。

#### 化学コース

- ・ 自立性の向上について大学初年度にもっと促してほしい。
- ・ 特にないです。

#### 生物科学コース

- ・ 特にないです。
- ・ 特になし。
- ・ 楽しい 4 年間で過ごせました。
- ・ 他の学科との交流が少ないので、もっと意見交換できる場を作ってください。
- ・ フィールドワーク系の授業があると良いと思いました。
- ・ 事務が適当すぎる。(教育はいいが、履修関係の仕組みを質問とかしにいった時の対応が雑。)
- ・ 取得した単位の計算や把握が分かりにくい。
- ・ 理学部以外の授業もいくつか単位を認めてほしいなと思った。(人文や教育学部で興味のある授業がいくつかあったので)
- ・ 単位計算の方法が分かりづらかったので、もう少し分かりやすくしてほしい。
- ・ 4 年間ありがとうございました。

#### 地球科学(地球史環境科学)コース

- ・ 他大学との交流機会を設けて頂きたいです。
- ・ 履修科目や取得単位が卒業要件を満たしているのか分かりにくかったです。
- ・ 履修登録状況を一目で分かるようにしてほしい。例えば、「あなたにはあと○単位、卒業単位には必要です」などがあると分かりやすい。
- ・ 奨学金担当者をもっと丁寧な人にしてほしい。
- ・ 履修状況を簡単に確認できるシステムを導入してほしい。もっと分かりやすい履修登録にするべきだ。
- ・ より早くコース配属し、より早く研究室配属にされるべきだと思います。
- ・ 図書館の 24 時間化。
- ・ 理学部でもコースによって難易度は違って来るので、同じにとは言わないまでも、高い水準に合わせるなりなんなりすればいいと考える。

#### 情報科学コース

- ・ 今居る先生かは分かりませんが、目の前のカンニングを見逃したり、自分の研究室の学生の話ばかりで授業が進まなかったり、まともに授業の用意をしていないせいで、進行がめちゃくちゃだったり等、そういう授業に限ってアンケートが無かったので、全ての授業でアンケートはあった方がいいと思います。

#### 応用化学コース

- ・ 物理化学と量子化学と無機化学の授業を増やしてほしい。授業での範囲が狭く、院試等に役に立っていない印象を持った。
- ・ 専門の授業が分野別に偏り過ぎでした。院試で苦労したので学部での授業はまんべんなく授業を受けたかった。
- ・ 履修できる上限科目が非常に少ない。
- ・ 特になし。

#### 海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 卒業研究をもっと早くから始められればいいと思う。
- ・ 自分のやりたいことをさせて頂けるので、すごく満足でした。
- ・ 問題解決能力の醸成という意味で、客観的な意見を取り入れながら、卒論について考える場が十分に与えられる研究室である事が望ましいと感じた。
- ・ よく教員に勉強しろと言われたが、勉強させたいのであれば、しなければならないように、制度を変えるべきではないでしょうか。また、理学部のジェネラルコースは無くすべきだと思います。
- ・ 一般教養の講義はもっと減らし、専門分野の講義を履修させるべきだと思います。

#### 災害科学(防災科学)コース

- ・ 4 年間ありがとうございました。

- ・ 4 年間、充実した教育を受けさせて頂き、ありがとうございました。
- ・ 特になし。/特にないです。
- ・ 情熱的な先生と、クールな先生のギャップが激しいが、十人十色なので、問題なし。
- ・